

メディカル英語 No.3

医学英語の症例報告を読む ― Case Report の構造で情報を抜く

導入文

医学部入試の英語長文には、症例報告（Case Report）形式の文章が増えている。アブストラクトと違い、症例報告は「患者の背景→症状→検査・診断→治療→結果→考察」という特有の流れがある。この構造を知っているだけで、未知の医学英文を素早く正確に読める。

講義概要

症例報告（Case Report）の文章構造を体系化し、Chief Complaint・History・Findings・Diagnosis・Treatment・Outcomeの各パートの役割を整理する。構造を手がかりに未知語・専門語が多い文章でも情報を抜く読解法を習得し、医学部の長文問題に対応する。

授業目標：症例報告形式の医学英文を、構造を手がかりに素早く情報抽出できるようにする。

対象者：高2～高3・浪人生。医学部・薬学部・看護系志望で、医学英語の長文読解に対応したい生徒。英語基礎（高校英語既習）があれば対応可能。

授業時間：授業90分＋演習・質疑応答30分

到達目標：Case Reportの6パートを見分けられる／各パートから必要情報を抜ける／設問の問われ方とパートの対応がわかる

授業構成（90分）＋演習・質疑応答（30分）

授業90分：1 導入：症例報告形式で止まる原因を確認 2 概念導入：Case Reportの6パート構造を整理 3 演習：実際の症例報告を6色にパート分け 4 情報抽出：各パートで「問われやすい情報」を整理 5 実戦：設問付き医学英文を構造で処理 6 まとめ：「まずどのパートか」を先に判断する習慣を固定

追加30分：初見の症例報告英文を読んでパート分けする演習と、設問処理の速度を上げるための質疑応答を行う。

板書・スライド骨子：Case Reportの6パート定義／各パートの役割と頻出表現／情報抽出の手順／設問との対応マップ

課題：短い英語症例報告を1本読み、6パートに分解した上で各パートの要点を1文ずつ日本語で書く。

備考：高校・予備校の先生方／編入学試験および大学院受験への橋渡しの基礎確認をしたい方にも対応。